

令和4年度 第2回八王子市多文化共生推進評議会 議事要点録

開催場所	生涯学習センター（クリエイトホール）11階 第7学習室
開催日時	令和4年（2022年）7月15日（金） 午後6時30分～8時30分
出席者	森茂座長、大塚評議員（オンライン）、奥野評議員、小峰評議員（オンライン）、 柴山評議員、鈴木評議員、ドミー評議員、花輪評議員、松本評議員
配布資料	評議会次第 資料1 八王子市多文化共生推進プランに基づく取組状況 資料2 八王子市多文化共生推進プラン（改訂版）の指標について 資料3 第2期多文化共生推進プランの体系図（案）

1. 八王子市多文化共生推進プランに基づく取組状況について

- ・映画上映会で上映した「バベルの学校」はどのような内容の作品なのか。また、観客はどのような人を対象としていたのか。

【事務局の回答】

移民の多いフランスの、多国籍・多文化の子どもたちが集まる中学校を題材にしたドキュメンタリー映画である。国籍や言語、宗教が異なる子どもたちが、衝突や対話を繰り返しながら、成長していくようすを収めている。

観客としては、広く市民を対象としていた。当日は外国にルーツがある参加者もいた。

- ・外国にルーツがある子ども、日本語を十分理解していない子どもの日本語教育、学習支援の充実が必要だと感じる。

【事務局の回答】

小学校・中学校に日本語学級を設置し、初期集中的に日本語教育を行っている。

子どもは順応性が高いことが多い一方で、保護者と学校のコミュニケーションが課題となっている。各学校で翻訳機等を活用し、意思疎通を図るようにしている。

- ・国際協会では、市の設置している日本語学級に通級している子どもたちの放課後支援を行っている。充実を図っているが、なかなか支援が追いつかない。広い市域に対して、日本語学級数が少ないとも感じる。それでも他市に比べて整っている方ではあるのだが。

- ・日本語学校は20歳前後の生徒が多いが、たまに地域のお子さんが日本語を学習しにくることがある。授業に参加しても、子どもなので、どうしても集中力が切れてしまう。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響もあるのだろうが、国際協会の語学ボランティアの登録数に比して、通訳実績が少ない気がする。需要はあると思うので、利用したい側の外国人に、このサービスの情報をどうにか届けたい。
- ・市で実施している日本語教室について、八王子市に転入して来た外国人にはどう周知されているのか。
【事務局の回答】
市で発行している外国人向け情報誌「Ginkgo(ギンコ)」や「外国人のためのくらしの便利帳」などに教室の情報を掲載し、転入の際に渡している。より周知を進めたい。
- ・保育園に翻訳機(ポケトーク)が配備されたことで、保育士さんとの意思疎通がスムーズになり、とても助かったという外国人のお母さんがいた。また、連絡がICT化され、紙ベースではなくメールで来るようになったことで、保護者の側で翻訳などが容易になった。良い変化だと思う。
- ・日本語学級は最長2年通級できることになっている。2年も必要でない児童もいるが、2年では足りない児童もいる。それぞれのレベルに応じた対応ができればいいと思う。

2. 八王子市多文化共生推進プラン(改訂版)の指標について

- ・外国人住民も含め、地域社会で住民の交流を企画するにあたり、町会・自治会との連携が大切だと実感している。

3. 第2期多文化共生推進プラン策定について

- ・町会・自治会の加入率が下がっている。強制して入会するものではないが、防災のことなどを考えると、町会・自治会の存在は大きいものだと思う。
日本人も含め、住民として地域に入っていくにはきっかけが必要だと思う。障壁があるのだとしたら、それを取り除くことを、地域の住民として考えてあげたい。
- ・町会・自治会に入ってもらいきっかけづくりというのは、外国人住民に限った話ではない。住民全体として加入する人は減っていて、日本人住民にも全く同じことが言える。最近は、地域が近づくことを好まない人も多く、さまざまな理由で加入率が伸び悩んでおり、同プランの加入率の目標値も高い印象もある。それでも八王子の加入率は、比較的高い方だ。
きっかけづくりは本当に難しいと感じる。災害時・防災などを理由にした加入促進は簡単ではない。

・交流をしやすいとする、人が集える、そういう場、機会の創出をしていきたい。コロナの中で難しいことではあるが。町会・自治会としても、これは日本人に対してでもあるが。

・子ども食堂の運営の中で、どうにかして外国籍の子どもたちに来てほしいと、いろいろ策を練っている。また、外国籍の子どもの親を招いて、料理教室を開いている。日本語はたどたどしいこともあるが、とても嬉しそうに自分の国の料理を紹介しており、楽しみながらつながりができたと感じる。そういった活動を通じて思うのが「おいしいこと」「楽しいこと」「嬉しいこと」に人は集まってくる。つながることの良さを知ってもらえれば、人は集まってくれると思う。自分としても、町会に入って地域のつながりの大切さを感じることができた。

・国際協会として町会のお祭りに協力したことがある。模擬店で外国人の方に母国の料理を出品してもらったところ、とても人気があった。やはり皆「おいしい」に寄って来るのだなと感じた。外国人に地域の交流を周知することも大事だが、日本人住民に機会を知ってもらうことが大事だと思う。

・介護に関する日本語教室はどのように運営しているのか。これからさらにニーズが増えていくと思うが。

【事務局の回答】

福祉部で市内の日本語学校に委託をして実施している。

・外国人の子どもは、日本語が上達するなどして、学校に馴染める子どもも多いが、その保護者は言語の問題等でわからないことが多く、学校とコミュニケーションを取らない人、連絡などを放置してしまっている人も多い。家族構成、言語レベルなど、家庭の状況もそれぞれ違う。それぞれの家庭に合ったサポートが必要だと思う。

・身近な人に通訳を頼める仕組みがあると助かる人も多いと思う。支援する人を支援してもらえたら。有償ボランティアの制度などが有用なのではないか。行政がその費用を出してくれるような制度があったら良いと思う。

・国際協会では語学ボランティア制度で通訳サービスの運用している。通訳にもいろいろな内容がある。内容によっては、身近な人に相談したくないものがある。そういう場合に協会の通訳は特に有用である。国際協会の語学ボランティアの周知を進めたいし、身近な人にも紹介してもらいたい。

・民間が運用している Facebook ページに、市内の情報を共有しているものもあるので、そういったもので情報を共有するのも各個人レベルでは良いのでは。

【事務局の回答】

行政として利用するのは難しいとは思いますが、個人レベルで活用してもらえたら。

防災情報等の情報提供については、特定の個人のネットワークではなく、市が配信する防災情報メールの登録をお願いしている。カタログポケットでは防災ハンドブックを多言語で読むことができる。

- ・やさしい日本語、サイン、マークなどで、情報をやさしく案内できるまちになってほしい。

【事務局の回答】

「やさしい日本語」に関して。今年度、自主防災組織向けの研修である防災指導員育成研修会にて、やさしい日本語を扱ってもらうことになっている。1回あたり120人が参加する規模で、3回実施される予定。災害時、避難所などでは外国人との意思疎通が想定される。町会・自治会など、地域の皆さんに「やさしい日本語」の普及を進めていきたい。

- ・新型コロナウイルス感染症を機に、外国人はどうしても医療に関して障壁があると改めて感じた。

【事務局の回答】

東京都では「ひまわり（医療機関・薬局案内サービス）」で、外国語で対応できる医療機関を公開しているほか、AMDA（国際医療情報センター）などが外国人を対象に医療に関する情報を提供している。消防署では三者間同時通訳を開始した。

都内の医療体制は、市町村単位ではなく都で連携調整するのが主になっている。どうしても市独自で取り組むのは難しい分野ではあるので、既存のサービスの活用をより周知していくことに力を入れる。

- ・新しい体系案はよくまとめられていると思う。項目の数を40から21に減らしているが、事業が減ったわけではないという理解でよろしいか。

【事務局の回答】

その通りだ。事業数は変えておらず、内容に応じて項目等を改めて整理した。